

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 3月 27日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4270300439		
法人名	医療法人 済家会		
事業所名	グループホーム長庚堂		
所在地	長崎県島原市弁天町一丁目 7054 番地		
自己評価作成日	H25年1月30日	評価結果市町受理日	H26年3月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 26年 3月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

母体法人が近隣にて医療機関の為、24 時間体制で連携が密に行え利用者様、ご家族様に安心して頂けている。また立地が商店街、公園が近く郊外へ出かけやすい。グループホーム長庚堂Ⅱの事業所も隣りにある為、利用者同士の交流も図れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

当ホームの職員は、認知症サポーターとして、《認知症を正しい知識で明るい社会・みんなで支える地域の輪》旗に示し、母体の講演活動に参加して、家族に向けた勉強会への参加の促しや困難事例者の診察への働きかけ等も対応出来る様に研鑽されている。職員の離職は少なく、母体の勉強会には必ず参加して、研鑽を積み今後の課題として、感染症等の学びを必要と考慮されている。又、外部研修の困難事例検討会の内容を話し合いケアに反映されている。職員は、家族への対応や接遇等の自己評価に取り組み質の向上により、家族の満足度が得られている。ホームの立地の利点もあり、近隣に住宅街や商店街があり、買い物や散歩等地域に密着した暮らしの継続が母体法人の 24 時間 365 日の医療支援により、入居者と家族の安心に繋がっている。更に、職員の連携による入居者の見守りと早期発見・早期治療により、入居者は好みのコーヒーをゆったりと楽しまれている。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関、事務所にも掲げている。毎日の朝礼時に全員で唱和し、実践に繋げている	職員は、理念に添って馴染みの地域への外出等楽しみながら穏やかに過ごして頂ける様に、入居者の気持ちを尊重して支援されている。職員は、馴れ合いに留意して、自己評価で気持ちを引き締め取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、回覧板にて施設たよりを回している。市民清掃や行事にも利用者様と参加交流をしている。	町内会の協力により、避難訓練に参加頂き、入居者の安全な避難に向けて、見守りを依頼できる協力関係を保持されている。町内の祭りに参加したり、ホームの行事の餅つきへの参加を呼びかけて、近所の方に御餅を配ったり、お花を頂いたり、近隣との交流を持たれている。看護・福祉学生の実習や中学生の福祉体験等も継続的に受け入れられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関に認知症サポート旗を掲げ理解を頂いている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	それぞれの立場で意見交換ができており、また母体法人の専門職からの講話などアドバイスも受け活かしている	会議は、2ヶ月に1回を目途に、同一法人のグループホームと合同で開催されている。会議は、警察職員に参加頂き、入居者の状況や取り組み状況を理解頂き、行方不明者の情報提供の特徴等細やかなアドバイスやゴミの処理について、留意点等の意見が得られている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも市職員の参加を頂いており、島原支部、半島の連絡協議会を通じ伝達している	会議への欠席時、代理参加は得られていないが、必要に応じて相談や書類提出に出席している。認知症サポーターとしての活動も前進的で相談も受け入れ、他機関の警察職員の理解と協力が得られている。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>母体法人の勉強会や研修会に参加し全スタッフが理解している。日中は出入り口は施錠はしていない</p>	<p>玄関の施錠もなく、職員の言葉掛けも穏やかで、入居者の留意すべき行動があれば、職員の連携で頻繁な見守りと拘束のないケアを努められている。今回、ノロウィルスの医療支援のむずかしさに直面したが、母体の医療連携の下、職員はホームにおいての回復を目指して、徹底したケアを共有して尽力されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>母体法人の勉強会や研修会に参加し全スタッフが理解しており防止に努めている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している</p>	<p>研修会や母体法人の勉強会に参加し理解はしているが活用したことはない</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に話を聞き説明を行い同意を得ている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱も設置し、家族会や面会時に意見、要望を聞き対応している</p>	<p>同一法人のグループホームと合同の家族会を敬老会後等のイベント実施後に年3回程実施されている。職員会議で検討した結果アンケートの実施でなく、話しやすい雰囲気の中で、職員の言葉使い等良い事や悪い事も家族の率直な意見や要望を頂き、職員の自己評価の取り組みや食品の持ち込み確認への家族の協力も得られている。また、家族の意見や要望には迅速な対応を心掛けて、取り組みの内容はお便りで報告して安心感に繋がられている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>申し送り時、スタッフ会議時にて意見交換している</p>	<p>毎日の申し送りや会議において、入居者の状況報告や職員の意見でケアの共有制を図り、今回のノロウィルス感染において、消毒方法等徹底した取り組みで尽力されている。職員は、意見の言える関係で入居者の関わり方等試行錯誤の試みをしているながらも、改善すべき点は改善してケアの共有を図りながら対応されている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>L A Nにて出勤管理にて母体法人全体で勤務状況は把握できるシステムになっている。環境整備については法人の理解を得て努めるようにしている</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人外の研修は了解を得て受けている</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>島原半島、島原支部のグループホーム連絡協議会を通じ取り組んでいる</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に、本人と家族の要望を聞き信頼関係に務めている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所前、入所後も本人、家族の意見、要望を聞き取り努めるよう心がけている</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族にアセスメントして対応している</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念を基本に、家族の一員として支援を心がけている		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会はもちろん、電話や手紙等も利用して関係を築くようにしている		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や手紙、電話または、訪問支援にて関係を継続している	馴染みの美容院と一時帰宅や墓参りの送迎をされている。近隣商店街へ小物作りの好きな入居者の為の材料や植栽の購入に同伴されている。家族と外食に出かけられたり、友達の訪問や電話で会話への支援もされている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーション、イベント等参加したり、一緒にふれあう時間作りに努めている		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会に行ったり、電話等での相談も受けている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いに添った支援を行うように努めるように心がけているが、ご家族の意見を重視することもあり本人本位に検討できないこともある	入居者が孤立感を持たれない様に声かけや小言に耳を傾けて、寄り添い信頼の持てる関わりを大切にされている。入居者への声かけで表情や動作から察して、思いの意志を確認してケアに反映されている。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人またはご家族様より聞き取り調査を行い把握するように努めている		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に把握できている。新人職員がまだ把握できていないが努力している		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様に作成時と月に1回のモニタリングにて説明をし意見を反映させるように心がけている	広域圏の実地指導を受け介護計画書の様式を見直して、長期・短期目標に基づき支援の基本的な留意点及び入居者と家族の希望に沿ったケアの内容を解かり易く作成されている。個人記録は番号にて支援内容と状況を明確にされている。毎月の評価の根拠を振り返り、次の作成に繋がられている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には短期目標のケア内容に対しての評価記録と業務日誌を職員間で共有している		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体法人からの専門職からのアドバイスや協力支援もあり、個々に合わせての柔軟な支援に取り組んでいる		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館などのお知らせや、選挙等の支援も希望にあわせ支援している		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に添った受診を定期的に行っている。また必要に応じてご家族様の協力も得ている。	母体の病院受診の場合は、待ち時間の負担の軽減に配慮されている。母体診療の往診や歯科往診も得られている。入居者の緊急時や家族の判断の必要性がある時は、家族に連絡をして、同席の協力も得られている。	
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の定期訪問看護と異常時の相談にも適宜対応して頂いており、母体法人にも速やかに協力支援を頂いている		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人、ご家族様との話し合いで意向を踏まえ主治医と連携を取り早期退院に向けている		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	計画作成時に、ご本人、ご家族様に説明し、確認している	母体への入院を支援されているが、看取りマニュアルの作成はあり、入居時看取り指針を家族への説明と同意は得られている。入居者の状況変化を早めに気付く事の重要性を示されており、早期発見・早期治療によって退院後に回復して過ごされている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成していると共に研修にも参加し共有している		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成しており、年2回の防災非難訓練また、救急蘇生法も消防署より指導して貰い、地域の方も一緒に学び協力体制に努めている	各居室と廊下に避難経路の掲示と避難口にはセンサーを設置されている。定期的な避難訓練は、運営推進会議後に実施して、参加者へ訓練状況を見て頂き、協力関係の構築と反省点を次回の訓練に反映されている。	母体と連携した備蓄を考慮されているが、独自の備蓄の補充と備蓄一覧表（消費期限明記）の作成を期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づきプライバシー保護に努めるよう心がけているが、他利用者様が居るにも関わらず排泄促しの声かけを大きい声で行う事がある	入居者への言葉掛けは、穏やかで敬愛と奉仕の精神を持って、支援に努められている。入居者が恥ずかしい思いをされない様に、他の入居者にも配慮して、失禁での声かけや入浴時の羞恥心に心配りをして、安心感を持って生活出来る様に支援されている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	急かさず、ゆっくりと聞き入れるようにしており、また、言葉で言えない利用者様には表情などで察知するよう働きかけている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事間は個々にあわせている。また、買い物などの希望には条件が合わず、希望に添えないこともあるが出来るだけ要望に応えるように努力している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や化粧は、ご本人の希望にて支援している。また馴染みの美容室なども個々に対応している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を個々に見つけ調理、味見、片付けに参加を促している。また定期的に嗜好調査も行っているが母体法人と同じ仕入れになる為、楽しみになっているか解らない	入居者の咀嚼・飲み込み状況と好みや希望を聞いて、刻み、お粥、普通食の違いを入居者に説明をして食事を提供されている。献立をホワイトボードに明記して、香りや調理の様子を見て楽しみにして頂ける様に配慮されている。薬の服用による代替食やカロリー制限等体調管理に努めた食事の提供を心掛けられている。入居者の自立した食事をゆったりと受け止めて支援されている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てたメニューで栄養バランスは摂れている。水分補給も気候や状態に合わせて行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声かけにて行われており、自分で出来ない利用者様には介助している	

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて個々に把握に努めており、トイレ誘導の声掛け、介助を行っている	入居者の状況に合わせて、パット使用の見直しを行い、声掛け誘導で自立に向けた排泄支援をされている。失禁時、パット装着で不快な想いをされない様に声掛けをして細やかな支援を心掛けられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度の水分補給、運動、腹部マッサージを心がけている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を定めてはいるが希望、必要に応じてはシャワー浴等も行っている。また、柚子風呂、菖蒲湯など季節感も味わい楽しんで頂いている	入浴の順番を考慮して、無理のない週3回の入浴や清拭・シャワー浴等で清潔保持に努められている。入浴時、皮膚の状態も異常がないか確認されている。浴室には暖簾「長庚堂の湯」を掲げ、半身浴も出来る浴槽でゆったりと楽しみに入浴して頂ける様な配慮をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のリズムに合わせており、不安感のある利用者様には職員の傍で休んで頂き安心してもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに添って支援を実施しており、処方薬表を個人記録に添付し毎回確認できるようにしている		

48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望に添った計画支援と、毎日のレクリエーションやイベント参加にて気分転換を図っている		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方からの案内行事や墓参り、買い物、外食等、時折、ご家族の協力も得ながら支援している	入居者の身体的疲労も考慮して、近隣の商店街へ小物作りの材料や園芸の植栽の購入に出かけられている。入居者の要望に沿って弁当持参で花見物や外食等楽しみな外出も支援されている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の金額はご本人で持たれており自分で選び購入し支払いも出来る。出きない利用者様に対しては家族の協力支援を受けている		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの手紙、電話または、FAXでの支援もあり、本人の希望にて関わりを継続できるよう支援している		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は掘り炬燵にて生活感、施設内は季節感を配慮した飾りつけなどの工夫をしている	入居者は、共用空間にて職員が調理する様子やテレビを見たりして、必要に応じて居室に戻られている。入居者の書道の作品やカレンダーにその日の活動を示し、ボードに献立を明記して、見当識にも配慮されている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼リビングが利用者様同士の交流の場であり、居間の掘り炬燵でも和んで頂いている		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族にアセスメントして対応している家族と相談し馴染んだ家具やカーペット、仏壇等の持込みもあり、過ごしやすい工夫に心がけている	入居者一人ひとり趣の違う雰囲気作りに家族の協力があり、落ち着いてゆったりと過ごせる工夫をされている。入居者は、食後に居室でテレビを見たり、ベッドで休まれたり想い々に過ごせる様に配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全バリアフリーにて手すりに対応しており、玄関にはスロープを設置している。また、廊下には歩行灯も設置している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない